

Daily Market Report

ナフサ C&F JAPAN 評価値(ドル/MT)

C&F JAPAN 評価値

5月後半着	1,030.00	(2.50)
6月前半着	1,026.50	(2.00)
6月後半着	1,024.00	(1.50)
7月前半着	1,022.50	(1.25)
7月後半着	1,021.25	(1.00)

OPEN SPEC NAPHTHA スポット取引プレミアム評価値

(千葉到着ベース)	COUNT30日前	COUNT45日前
5月前半着	+ 7.25	+ 4.25
5月後半着	+ 5.75	+ 3.75
6月前半着	+ 3.63	+ 2.25
6月後半着	+ 2.25	+ 1.12

算出時の原油価格(ドル/bbl)

MONTH	MAY
WTI	107.89
BRENT	121.59

本日午前 10 時時点での理論上の計算値、()内は前営業日の評価値との比較

[マーケットコメント]

5 日のナフサ C&F JAPAN は 1014.75 ドルと小幅続伸、クラックスプレッドは反落。原油価格がリーマンショック以来の高値を付けたことで、ナフサ価格も 1000 ドルを突破し高値警戒感が強まっている。相変わらず欧州市場の期近玉はタイトな状況で、供給が需要に追いついていない。現在タイトな状況となった主要因は米国への玉の流出だが、欧州市場が上昇したことで、米国へ流出するナフサの量が減ることが見込まれている。そのため、今後はタイト感が緩和することが想定され、買い手の勢いが止まった。常に供給過剰にある欧州市場において、米国への裁定玉の流出が減ると、当然アジア市場に流入することが想定されることから、アジア市場も弱含みの展開となった。さらにナフサ価格が上昇していることで、石化のマージンも悪化し、クラックスプレッドは下落した。本日のアジア市場は売り手優位の展開となる。原油価格がリーマンショック以降の高値を更新したが、石化のマージン悪化が懸念され、ナフサの上げ幅は限定的になる可能性が高い。

ナフサ MOF / 国産ナフサ価格予想値および評価値

	ナフサMOF価格				国産ナフサ価格	
	ドル/MT	ドル/円	円/KL	速・確報値/(前日比) 円/KL	予想値/評価値 円/KL	速報値/(前日比) 円/KL
10-Oct	700.07	83.42	40,587	40,712		
10-Nov	747.36	81.39	42,273	42,222		
10-Dec	796.85	83.61	46,305	46,634		
10-4Q			43,079	43,101	45,100	45,100
11-Jan	857.45	82.91	49,410	49,202		
11-Feb	882.61	82.33	50,505	50,204		
11-Mar	909.37	82.49	52,133	(±0)		
11-1Q			50,513		52,500	(±0)
11-Apr	981.73	82.45	56,254	(4)		
11-May	1,023.87	85.19	60,620	(648)		
11-Jun	1,034.16	85.21	61,241	(682)		
11-2Q			59,372		61,400	(500)
11-Jul	1,032.48	85.22	61,155	(680)		
11-Aug	1,030.94	85.24	61,078	(687)		
11-Sep	1,029.44	85.27	61,006	(688)		
11-3Q			61,080		63,100	(700)
11-Oct	1,027.94	85.30	60,938	(687)		
11-Nov	1,026.44	85.33	60,871	(687)		
11-Dec	1,024.94	85.36	60,807	(685)		
11-4Q			60,872		62,900	(700)
12-Jan	1,023.36	85.40	60,743	(682)		
12-Feb	1,021.34	85.45	60,657	(682)		
12-Mar	1,018.47	85.51	60,525	(681)		
12-1Q			60,642		62,600	(600)

予想値は太字での表記、MOF(国産)価格の評価値は予想値ではなく本日午前 10 時時点での理論上の計算値

(前日比)は前営業日の予想値および評価値との比較、換算比重は 0.695、為替レートは実勢為替相場に基づいた通関レートおよび為替先物マーケットから算出

[ナフサ MOF/国産ナフサ価格予想値および評価値コメント、マーケットコメント]

本日午前 10 時時点の 11 年 1Q 国産ナフサ予想値は 5 万 2500 円と予想値に変更はない。本日のナフサ C&F JAPAN 評価値は上昇が想定されるうえ、引き続き円安進行の影響もあり、MOF 評価値は続伸することが見込まれる。11 年 2Q 国産ナフサは前営業日比 500 円高の 6 万 1400 円の評価。

11年1Q国産ナフサ予想値および評価値(円/KL)



11年2Q国産ナフサ予想値および評価値(円/KL)



太線は弊社予想値および評価値の推移、細線はナフサ C&F JAPAN に為替および比重(0.695)を乗じた数値の推移

Daily Market Report

原油・石油製品相場(前営業日)

Crude Oil(ドル/bbl)

		close	chg
NYMEX / WTI	MAY	108.34	(0.13)
	JUN	108.99	(0.06)
ICE / BRENT	MAY	122.22	(1.16)
	JUN	121.89	(1.23)

Oil Products(セント/gal) (ドル/MT)

		close	chg
NYMEX / RBOB	MAY	320.13	(3.25)
NYMEX / Heating Oil	MAY	318.50	(1.36)
ICE / Gas OIL	APR	1,021.50	(12.75)

[マーケットコメント]

5日の原油相場は、ロンドン市場は続伸、NY市場は期近安期先高。中国の利上げを嫌気した売りが先行し、WTI期近5月限は4営業日ぶりに反落した。ただし、リビア情勢の混迷から、下値では買戻しや押し目買いが入り底堅い動きとなっている。

中国人民銀行はこの日、インフレ抑制に向けて政策金利引き上げを発表した。この報を切欠に、世界第2位の石油消費国である中国の経済成長が利上げにより減速し、石油需要の伸び悩みに繋がるとの見方が広がった。また、3月の米ISM非製造業景況指数が前月から低下、市場予想を下回ったこともあり、前週末の雇用統計後の米経済に対する楽観的な見方が若干緩んだことも、原油売りに繋がったとみられる。ただし、積極的に売り込む向きは見られず、下値では買い支えられた。北アフリカおよび中東の原油供給懸念、対ユーロでのドル安がサポート要因に。リビアでの混迷が続いている。海運輸送データ会社AISライブによると、この日に東部都市トブルク港近くのターミナルに、積載量100万バレルのタンカーが到着したという。ただ、トブルクにはパイプラインが繋がっているものの、本格的な輸出再開には主要石油都市であるラスラヌフやブレガからの輸出が必要である。しかし、カダフィ政権側との交戦で、そのブレガから反体制派が後退したと伝えられた。反体制派は石油輸出の準備を進めていただけに、同国からの供給再開への期待感が薄らいだ。また、明日7日には欧州中央銀行(ECB)が利上げすると見方が広く予想されており、ユーロ買いからドルが売られたこともあり、下げた局面では地政学的リスクやドル安を背景に買いが入り、下げ幅を縮小した。なお、ブレント期近5月限は続伸し、2年半ぶりの高値を付けている。WTIとのデフォレンシャルは一時14ドル以上にまで拡大した。

トピックス

「ポリマー輸入品(アジア・スポット市況運動)国内需要家渡し想定値」

アジアのポリマー市況はまちまち。オレフィン系ポリマーは、比較的強めの需給ファンダメンタルズを背景にポリプロピレン(PP)は続伸している。スチレン系ポリマーは総じて軟調で、これまで強基調にあったABSが大きく下げている。

オレフィン系ポリマーはまちまちの動き。ポリエチレン(PE)は総じて軟調で、C&F JAPAN 想定値ベースで前週比変わらずから10ドル安。原料エチレン市況が堅調なことから、中東産のオファーは比較的高唱えとなっている。しかし、中国のエンドユーザーは、安値圏で購入した在庫を抱えていることもあり、積極的な買いに動いていない。むしろマージン悪化から引き合いは乏しい状況に変化はなく、市場のムードはベアな状況となっている。一方のPPは小高い。潤沢な在庫を背景に中国のエンドユーザーの買い気は乏しいが、震災により供給能力が落ち込んだ日本からの輸入需要が期待されることで、サプライヤーは原料高を背景にやや高めのおファーとなっている模様。既に市場では織り込んだ感はあるものの、PPプラントの定修要因もあり、堅調地合いを継続する可能性が高い。

スチレン系ポリマーは総じて軟調。ポリスチレン(PS)は、前週に続き、変わらずから10ドル安と小安い。原料スチレンモノマー(SM)市況の下落を眺め、先安期待からエンドユーザーは必要最低限の実需以外の購買は手控えている様子。中国政府のインフレ抑制への動きを懸念し、キャッシュ化を進める動きも圧迫要因に。一方のABS市況は40ドル安と大きく値を崩している。原料SM市況が値を下げる一方で、アクリロニトリル(AN)やブタジエン市況は強含みで推移している。全体として原料市況が下げ渋るなか、季節的な需要減少期にあたり、かつマージンが圧縮傾向にあることから、コスト見合いで引き合いが低下している。原料プラントの定修が予定されていることで、下げ足を速める可能性は低いものの、長期に亘る上昇の反動もあり、一旦は下向きバイアスが強まる可能性が高い。

なお、国内需要家渡し想定値に関しては、アジア市況がまちまちとなるなか、為替相場レートが前週から2.29円の円安ドル高と大幅な円安が影響し、軒並み値を上げることが想定される。(想定為替レート:1ドル=83.51円)

ポリマー	C&F Japan(主要港) 5月着(ドル/MT) 想定算出基準	DDP(主要港から50km圏内大口需要家渡し) 5-7月渡し(円/kg)			
		20ft. コンテナ直送		4tトラック配送	
		特惠国産	非特惠国産	特惠国産	非特惠国産
PP (HOMO)	1,680 (10)	152 (5)	160 (5)	158 (5)	166 (5)
PP (COPOLYMER)	1,730 (10)	156 (5)	159 (5)	161 (5)	165 (5)
LDPE	1,715 (5)	155 (4)	163 (4)	161 (4)	169 (4)
LLDPE (Comonomer 5%以上)	1,430 (10)	129 (3)	132 (3)	135 (3)	138 (3)
HDPE	1,400 (10)	127 (4)	134 (4)	133 (4)	139 (4)
GPPS	1,560 (±0)	142 (4)	149 (4)	147 (4)	154 (4)
HIPS	1,710 (10)	155 (3)	158 (3)	160 (3)	164 (3)
ABS	2,300 (40)	207 (2)	212 (2)	212 (2)	218 (2)

()内は前週の想定値との比較

ポリオレフィン:17MTパレット付き(20ftコンテナあたり)X6コンテナ(輸入)、PS・ABS:17MTパレット付き(20ftコンテナあたり)X2コンテナ(輸入)、いずれもフリータイム内搬出、20ftコンテナ直送(輸入後2週間以内)は、海上保険、関税、CHC、D/O FEE、通関料、乙仲手数料、コンテナドレージ、商社マージン他諸経費等を考慮し算出

4tトラック配送は、倉庫保管期間を約3ヶ月とし、上記に加え4t車チャーター料、デバン入出庫料、倉庫保管料等を考慮し算出

経済連携協定のある国において、関税率がWTO協定、GSP等と異なるものはこの限りではない

Daily Market Report

「ゴム薬品値上げへ = ランクセス」

独特殊化学品大手ランクセスは1日、1日付でゴム薬品の価格を世界的に改定することを明らかにした。製品および地域によって異なるが、ゴム薬品の老化防止剤、促進剤、特殊化学品などのほぼ全製品群が値上げ対象となり、現行価格より15-25%の値上げとなる。今回の値上げは、主に原料コストの高騰に対応するため。

「中国にパウダースラッシュ材料の生産販売会社を設立 = 日本ゼオン」

日本ゼオンは4日、子会社ゼオン化成が中国の江蘇省常熟市の東南経済開発区に瑞翁化成塑料(常熟)有限公司(ZKC)を設立したことを明らかにした。2012年4月に、塩化ビニル樹脂(PVC)を原料とするパウダースラッシュ材料(PSC)の生産開始を目指すという。ZKCは拡大する中国自動車市場に対応し、安全、安価な自動車内装用材料を現地で供給するために設立。第1期には1000-2000トン/年の規模で低温特性を改良したPVCパウダースラッシュ材料(PVC/PSC)の生産を開始し、市場拡大に伴い第2期には3000-4000トン/年の生産規模の拡大していくことを計画している。

「インドにSBR製造販売会社を設立 = 丸紅」

丸紅は5日、インドでインド国営石油(IOC)と台湾の合成ゴムメーカーTSRCと共同で、スチレンブタジエンゴム(SBR)の製造販売を行う合弁会社を設立することで合意し、合弁契約書を締結したことを明らかにした。IOCはインド国内に8ヶ所製油所を有し、石油化学事業の拡大を進めている。現在、ハリアナ州バニパットにてナフサクラッカーを建設しており、今春稼働予定で、このクラッカーから副産物として産出されるブタジエンがSBRの原料となる。TSRCとは中国およびタイですでに合弁事業を行っている。丸紅は、ブタジエンの有効利用を模索していたIOCと、インド進出を目論んでいたTSRCとを引き合わせ、IOCの最新鋭クラッカーから産出されるブタジエンを原料に、クラッカー隣接地にSBRプラントを建設し、台湾や中国で実績のあるTSRCの技術でSBRを生産する。現在全量輸入されているインド国内のSBR需要を満たすのが目的。出資比率は、IOCが50%、TSRCが30%、丸紅が20%で、2012年の稼働を予定。

「ブラスケムとブタジエン長期契約 = 丸紅」

丸紅は、ブラジル石油化学大手ブラスケムから合成ゴム原料となるブタジエンを長期調達することで合意した。調達金額は5年間で450億円。ブタジエンはタイヤ販売の拡大で需要拡大が見込まれるが、供給力の増強が遅れている。ブラスケムは安定した販売先を確保し、大型投資に踏みきる。ブラスケムは3億レアル以上を投資し、ブラジル南部のリオグランデスル州で10万トン/年規模のブタジエン工場の建設に着手、完成は2012年予定。ブタジエン生産能力は約34%増強される。丸紅は2012年からブタジエンを購入、中国やインドにある傘下のタイヤ原料工場に供給する。将来はブラスケムとともに、ブラジルでのタイヤ原料の生産も検討する。

「2月の韓国中間原料 輸出」

韓国の2011年2月のEG、フェノール、PTAなどの中間原料輸出統計は以下の通り。

	数量 (mt)	価額 (US\$)	FOB KOREA (US\$/mt)	国別輸出量TOP3		
				国	数量 (mt) FOB KOREA	
エチレングリコール	33,071	39,989,434	1,209	中国	33,062	1,209
前月比	8,935	13,810,795	125	ウズベキスタン	5	1,353
前年同月比	3,901	11,171,823	221	パキスタン	3	2,672
フェノール	13,622	21,330,824	1,566	中国	8,028	1,667
前月比	▼6,784	▼9,854,971	38	タイ	3,500	1,386
前年同月比	443	4,489,020	288	日本	1,902	1,439
ビスフェノールA	14,004	31,877,253	2,276	中国	8,609	2,302
前月比	▼2,371	▼3,553,069	113	サウジアラビア	1,684	2,280
前年同月比	4,225	16,361,861	690	インド	720	2,274
PTA	277,456	402,596,774	1,451	中国	212,426	1,443
前月比	▼28,786	18,184,918	196	インド	35,046	1,483
前年同月比	▼13,106	135,436,568	532	アラブ首長国連邦	8,096	1,562
DMT	1,755	2,520,686	1,436	日本	945	1,369
前月比	▼47	159,225	126	中国	378	1,511
前年同月比	179	868,238	388	インド	180	1,533
AN	13,817	31,322,852	2,267	中国	8,778	2,244
前月比	2,031	5,908,356	111	タイ	2,425	2,389
前年同月比	6,379	17,544,900	415	インドネシア	1,601	2,175
TDI	18,333	43,428,875	2,369	シンガポール	2,200	2,188
前月比	▼1,740	▼4,497,288	▼19	香港	1,920	2,345
前年同月比	▼3,829	▼17,392,222	▼376	台湾	1,640	2,150
MDI	4,794	10,909,261	2,275	中国	2,300	2,327
前月比	7	306,517	61	台湾	880	2,238
前年同月比	1,148	4,280,171	457	ベトナム	473	2,195

(出所:韓国貿易協会)